

パークガイド

PARK GUIDE

2012
Vol.3



花・風・光を感じて!!
公園を楽しもう

花いっぱい公園で、季節を実感2
特集パークウェイは宮崎の誇り！国際リゾートにふさわしい花の景観づくりを行っています4
●コラムベントというより家族です。家族だから、一緒に走ったり笑ったりの楽しい時間を共有したい7
特集「今」を楽しむ人たちが心地よく過ごせる公園が理想です8
●コラム花を中心としたコミュニケーションがボランティアアライフの楽しみ11
自然が育む命：大切にすることを養ってもらいたい12
花カレンダー14
海外公園事情16
花もスポーツも：ちよつと欲張りな公園三昧18

パークガイド NO.3 2012年2月発行

編集・発行/一般財団法人 みやざき公園協会 〒880-0014 宮崎市鶴島2丁目10番25号
TEL.0985-25-7410 FAX 0985-25-7390 URL <http://www.mppf.or.jp> Email: park@mppf.or.jp



4月の久峰総合公園

花いっぱいの公園で、 季節を実感



お花見の季節、お弁当持って公園へ行くのはとても楽しい。

サクラ、ツツジ、アジサイ、ブーゲンビリア…花は季節の移ろいをさりげなく伝えてくれます。そして、私たちの心をなごませてくれます。

宮崎には花を楽しみながら散歩できる公園がそろっています。気軽にピクニック気分で楽しんでください。



パークウェイは宮崎の誇り！
国際リゾートにふさわしい花の景観づくりを行っています。

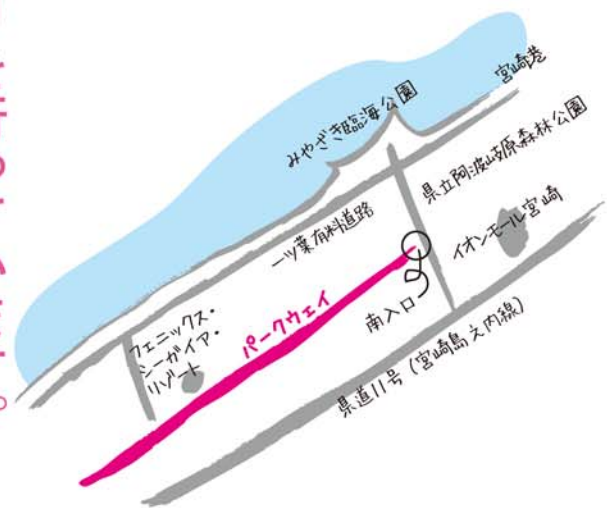
和風ゾーンの春の花木



永井 佐代子

一般財団法人みやざき公園協会
事業推進課 課長

大阪で16年間造園コンサルタントの会社に勤務。グリーン博みやざき'99、浜名湖花博、全国都市緑化おかやまフェアなど、花博会場の花壇設計に携わる。



華やかな中央分離帯



洋風で乾燥地帯をイメージしているエリア

パークウェイ 世界レベルのリゾートを目指してつくられたシーガイアリゾート。「観光とは文化である」という言葉があります。その言葉通りなら、まさにここには「宮崎の文化」が凝縮されているかもしれません。限りなくひろがる空と海、どこまでも続く松林。日本の島々や神々を生んだ「国生み神話」の舞台に国際級ゴルフ場やランドマークのホテルなどが並ぶ近代リゾートの地・阿波岐原森林公園。

それらリゾート地を結ぶのが、四季折々の美しい草花や樹木におおわれたパークウェイです。長さ4.2kmのパークウェイは、その名のとおり公園と道路が一体となった「通る」だけでもリゾート気分が味わえる、観光宮崎の「顔」と言えるでしょう。

何気なく見ている花や樹木にもストーリーがあり、一木一花にも意味がある。

パークウェイ全体にはいろいろな種類の花木を植栽しています。花壇設計の立場から、そのコンセプトをご紹介します。

入り口南端は、境界を示すようにカラフルな花壇とコニファーで植栽しています。そのねらいは「北欧のイメージで、玄関にふさわしいフォーマル感」を出すことです。遠来のお客様に「宮崎にやって来た」という満足感を感じていただき、日常とは離れて「宮崎を

楽しんでください」というメッセージを込めています。

さらに進むと「椿、サザンカ、ヤマモモ」の常緑高木、足元を「ツツジ、トキワマンサク、アジサイ、ユキヤナギ」など春を彩る花木で演出し、「和風ゾーン」のイメージをつくり出しています。下草にもフッキソウやセキショウなどで、「和」を強調しています。

この和風ゾーンの見どころはなんといっても春です。「真っ赤なトキワマンサクがちらなる圧巻の花景色」が、南国・宮崎ならではの春を強烈にアピールします。また、周辺の松林になじむように一本一本気を配って手入れをし、自然樹形となるように工夫しています。

地形や道路線形を有効に活用して印象に残る植栽設計を心がけている。

テニスクラブあたりからオーシャンドーム前にかけては景観ガラッと変わります。「洋風で乾燥地帯をイメージ」し、フェニックスヤシにカリステモンやメラレウカなどのオーストラリア原産の樹木、サンゴシドウやコルディリネ、アラマンダなど亜熱帯系の植物で構成し、下草にはアガパンサス、トリトマ、ニューサイランなど日本では珍しい景観をつくり出しています。

この区間は高低差やカーブを利用した印象的な植栽を心がけています。例えばカーブ



オーシャンドーム前の花壇



春のスイセン

を曲がったり、上り坂の先にメラレウカの黄金色が目に飛び込んでくるというような工夫を随所に施しています。

さらにカラー計画による変化に富んだ植栽も自慢です。例えば松林の緑に映えるようにコルディリネによるパープルゾーンを、パンパスグラスで大草原のイメージをつくり、メラレウカやジャカランダで次のステージへの期待感を演出しています。

思いっきり華やかなポイントから松林へグラデーション。

オーシャンドーム前はフローランテ宮崎への入り口にもあたり、ひととき華やかな花壇設計を心がけています。

ここから最終地点までは、松林とビロウが交互に顔を出すような景色で、少しずつ松林が多くなってきます。修景を利用しグラデーションのように花を減らしていき、利用者が「松林の中の道路」だったことを思いだしてくれることを期待しています。

また、一年前からパークウェイ沿いの松林の緑にスイセンを植え、早春の季節感を演出しています。松林の濃い緑をバック

に可憐なスイセンが浮き出るイメージです。また、他の植物の邪魔にならないように、スイセンそのものの見せ場も選定して植栽しています。

.....

皆さんも植物園のようなパークウェイで、花を愛でながら散策やサイクリングを楽しんでみてはいかがでしょうか？

春の一寸葉神話と花めぐり

パークウェイも含めた阿波岐原森林公園一帯は、古くから一寸葉地域と呼ばれてきました。

昨年からの一寸葉地域一帯の花を楽しみながら神話スポットを巡る「春の一寸葉 神話と花めぐり(昨年:ぐるっと一寸葉 フラワーフェスタ)」が行われています。3月17日から6月3日まで、公園や協賛店などが協力し、一寸葉地域一帯の花で飾る試みです。変化に富んだレジャースポットと神話の舞台を同時に楽しめる宮崎ならではの企画ですので、たくさんの方のお越しをお待ちしています。



ペットというより家族です。
家族だから、一緒に走ったり笑ったりの楽しい時間を共有したい。



Column

阿波岐原森林公園 ドッグラン



「いつも近所の公園で散歩させているけど、思いっきり走らせてあげたい」。そんな思いの愛犬家も多いと思います。でも、ほかの利用者のことを考えるとリードをはずすことはできない。愛犬家にとっては悩みの種ですね。

そんな愛犬家にとって絶好のフィールドが海沿いの樹林に囲まれた阿波岐原森林公園ドッグラン。ここへ来たら愛犬も人も思いっきり走ったり、笑ったりできます。愛犬も楽しそうだけど、人間だって爽やかな風と柔らかい日差しが心地良いなんともいえないフィールドです。

愛犬のトイプードル・チロル(2歳)とラルフ(8ヶ月)と現れたのは長友昌伸さん(29歳)と上村真理さん(26歳)。まだ生まれ

て8ヶ月のラルフは他の人や犬に興味津々、フィールドを縦横無尽に走り回る。ちょっとお兄ちゃんのチロルは、そんなラルフを心配そうに見守っています。「一日おきに遊びにきます」「ここに来るときは、二人(チロルとラルフ)とも分かるらしくて、とっても嬉しそう」という長友さんは、ドッグランでのひとときが仕事の疲れを癒してくれる大切な時間だとか。

「ほかの利用者とも仲良くなれて、犬ばかりではなく人もコミュニケーションが楽しめるんですよ」という結婚を間近に控えたお二人。

来年のこの時期には、家族も増えているかもしれませんね。

(K)

『今』を楽しむ人たちが心地よく過ごせる公園が理想です。



国際海浜エントランスプラザ



国際海浜エントランスプラザ所長
一般財団法人 みやざき公園協会 善家 美都子

日本人は幸せか 「幸福の国」ブータン国王夫妻の来日は、改めて私たちが「生きることの意味」や「幸福」「豊かさ」について考えるきっかけになったようです。また、2011年の漢字に「絆」が選ばれるなど、人と人との結びつきを大切にする社会を再認識するようになっていきます。

今回は、あなたにとっての「幸せ」とは？なんて、人間にとって永遠のテーマに挑戦してみました。

若いときは必死に頑張って、「何か」をつかもうともがいていたような気がする。

私は現在、英国式庭園で知られる国際海浜エントランスプラザの所長を勤めています。普段は公園の管理運営を行っています、時々日常を離れてフラッと一人旅を楽しんでいます。

私は20代後半に、勤めていた会社を辞め、「今しかできないことをやろう」と思い海外に出かけていきました。若い頃は何事にも一生懸命で無我夢中でした。頑張っていた時に体調を崩し、フッと「このままでもいいのかな」と思ったのがきっかけでした。



美しいクライストチャーチの街



ボランティアをしていたボタニックガーデン

ニュージーランドに行くと価値観が大きく変わった。

ニュージーランドのクライストチャーチはガーデンシティとして有名で日本人も多く訪れる場所ですが、私も10ヶ月滞在しました。一人旅をしたり、ボタニックガーデンでボランティアをしたりと充実した日々を過ごすことができ、楽しい思い出になりました。日本に戻ってからも、当時知り合った全国にいる友だちを訪ねるのを楽しみにしています。

日本での生活は時間に追われ、将来のために“今”を犠牲にしているような毎日だったのが、ニュージーランドの人々の生活を見て価値観が大きく変わりました。仕事をするときは仕事を、楽しむときは休みの楽しみ、家族といるときは家族といふ時間を楽しむ。周りにとらわれずに自分がどうしたいかを大切にする社会に、それまでの自分の価値観が大きく変化したのを覚えています。

私にとっては、ニュージーランドだろうが日本だろうが、世界中どこにいても“今”を楽しむということが“幸せ”なのかな、と思うようになってきました。

それぞれが大事にしたいと思っている価値観を認め合える社会が、きっと「生きやすい、幸せな社会」かなと思います。

今、自分がいる場所が自分にとって一番良い場所。

「“今”を大切にする生き方をしよう」と誓って宮崎に戻り、2011年4月から国際海浜エントランスプラザで働くようになりました。

パトロールのために自転車で園内の松林の中をグルグル回っているとき、フッと「この公園はいい公園だなあ、私はこの公園が好きだなあ」と、思うことがあります。

公園を管理する仕事は、窓口での受付業務、施設の維持管理、園内の美化清掃、イベントの運営など多岐にわたります。

所長になって1年も経たない私は日々の業務に忙しい毎日を送っていますが、「好きな公園で働けて幸せだなあ」とフツとした瞬間に思います。そういう意味では、“今”を大切にできていると思います。



わたしの好きな公園



国際海浜エントランスプラザの英国式庭園

“今”を楽しむ達人になろう！

今まで経験してきたことが今の仕事や自分の生き方に繋がっているの、無駄なことはないと思います。これから積み上げていく日々もきっと無駄にはならないだろうと思います。

公園での仕事の中で、いろんな人と出会う機会があります。仲間とスポーツを楽しむ人たち、広場で遊んでいる親子連れ、散歩をしているご夫婦、ベンチに座ってのんびりと時間を過ごしている人、英国式庭園

で作業をしてくれるボランティアの方たち。皆さん、意識はされていないと思いますが、“今”を楽しむ達人だと私は思います。

そういう人がもっと増えるときっと楽しい世の中になると思うし、そういう場所がたくさんあるといいと思います。国際海浜エントランスプラザが“今”を楽しむ人たちが心地よく過ごせる公園になるように、“今”私ができることを楽しんで仕事をしたいと思っています。



Column

花を中心としたコミュニケーションがボランティアライフの楽しみ



しっとりとして、訪れる人も少ない雨の英国式庭園。約束の時間に、三々五々ボランティアの方たちが集まってきました。英国式庭園では月に1～2回ボランティアメンバーが集まり、花の手入れやおしゃべりを楽しんでいます。

「今日は雨なので、座学を中心に」と、まとめ役の善家所長がバラの剪定について話し、和やかな雰囲気の中にも真剣な質問が飛び交っていました。「英国式庭園ガーデニングクラブ」は、20代から70代まで年齢層は幅広く、またプロ級の園芸技術を持つ人から、まったくの初心者まで、いろいろな人たちの交流の場となっています。

ボランティア活動に参加している皆さんに話を聞いてみました。

参加者の声

●“花”という共通する話題で“友だち”ができる
●家の外に出ることで健康にも良い
●仲間とのコミュニケーションが楽し



い●植物の知識が豊富になる●花植や剪定など、実際に庭づくりの役に立つ
社会の役に立っている実感が嬉しい。
社会に恩返しをしたい。

会話のなかで、一人の女性参加者が静かな語り口で、ボランティア活動に参加した動機について語ってくれました。「私は“グリーン博みやざき”にスタッフとして参加して、とても楽しく充実した日々を過ごした。その恩返しをしたい。」「美しい庭園なので多くの人に来ていただいて、感動してくれたらうれしい。」という言葉から、この活動への熱い気持ちが伝わります。

時には仲良くなったメンバー同士で、県外の緑化フェアなどに小旅行を楽しんでいるという英国式庭園ガーデニングクラブの皆さん。「ボランティアを頑張っている」というのではなく、「楽しみで集まっている」ということで、とっても楽しそうでした。(K)



萩の台公園

自然が育む命—— 大切に作る心を 養ってもらいたい。



ヒメガマ



キキョウソウ



カンガレイ



カラスノエンドウ

夢の島…ご存じの方も多いと思いますが、東京都のゴミ処分場でした。埋め立て終了後はスポーツ施設や植物園などが整備され、花と緑に包まれたまさに「夢の島」として、東京湾岸部の人気スポットとなっています。

ところで、宮崎でも「夢の島」と同じような経緯で誕生したのが、宮崎市北部の小高い山の上にある「萩の台公園」です。

萩の台公園は、昭和40年代から60年代前半まではゴミ埋め立て処分場として利用されていました。平成18年に総面積21.4haという広大な緑のスポーツ公園として生まれ変わり、公園の一角に湿地を生かした「トンボ池ビオトープ」が整備されています。

「命のつながり」を体感できる場に

私たちの周りには、さまざまな生き物がすんでいて、これらの生き物は命のつながりの中で生きています。例えば落ち葉や枯れ枝を分解する微生物、できた土を栄養として成長する樹木、樹液に集まる昆虫、それらを狙う野鳥…というふうに、つながりあっています。

今は都市化が進み、その命のつながりが途切れようとしています。地球に初めて生命が誕生してから約40億年といわれ、過去に5度多くの生き物が絶滅の危機に陥りました。そ



チョウトンボ



ハラビロトンボ



ベニイトトンボ



ショウジョウトンボ

して現代は6度目の大量絶滅の危機といわれています。過去の大量絶滅は火山噴火や隕石の衝突が原因と考えられていますが、今回は人間が絶滅の危機を引き起こしているそうです。一度「命のつながり」が途切れると、回復するまでに気の遠くなるような時間が必要です。話が少し大きくなりすぎましたが、萩の台公園はゴミ処分場だったので、子どもたちへの環境教育の場として、また、自然を大切にしようという意味も含めてトンボ池ビオトープが貴重な存在となっています。

最初はわずかな湿地にガマやヨシが一面に生え、陸化が進んでしまいそうだったのですが、市民の皆さんの協力でガマやヨシを適度に抜き、水際の生き物が住みやすい環境になっています。

萩の台公園とトンボ池ビオトープの魅力

春からカラスノエンドウなど色とりどりの野草が集中的に花を咲かせ、とてもきれいです。また、観察できるトンボがとて多く、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、夏にはチョウトンボなどが乱舞します。見過ごしてしまうような足元にもイトトンボなど、どこを見てもトンボがいっぱいで、子

どもたちが自然とふれあうにはちょうど良い環境になっています。

萩の台公園では、「トンボ池クラブ」というボランティアクラブが中心となって、ビオトープを中心に「生き物観察会」を定期的で開催しています。専門家の先生が説明してくれるので、とても分かりやすいと好評です。たくさんの参加をお待ちしています。

萩の台公園所長

一般財団法人 みやざき公園協会 高田祥子

ビオトープとは、ギリシャ語の「命(Bio)」と「場所(Topos)」という意味の造語でドイツで生まれた自然への考え方で、簡単に言うと、生き物が住みやすい環境をつくる、というようなことです。



花カレンダー

季節毎に公園を演出する花々。どんな花にもドラマがあり、個性があります。名前とともに特徴などをおぼえると、花に親しみがわいてきます。

3月～4月



ベニバナトキワマンサク *Loropetalum chinense var. rubrum* マンサク科

- 原産地/日本、中国、ビルマ
- 特徴/ 紅紫色の花を咲かせ、満開時は枝が花で埋まるほどになり、鮮やかです。マンサクとは名前が似ていますが、属が異なります。属名のロロペラウムは、ギリシア語のロロン(革ひも)とペタロン(花びら)からなり、花びらの形に由来します。**パ**

4月



ミツバツツジ *Rhododendron dilatatum* ツツジ科

- 原産地/日本
- 特徴/ 主に山の尾根や岩場、里山の雑木林で生育します。紅紫色の花が美しく、華が終わった後、枝先に三枚の葉が出てくることが名前の由来です。古くから庭木としても植えられています。**西**

4月～5月



ジギタリス'フォクシー' *Digitalis purpurea 'Foxy Hybrids'* ゴマノハダ科

- 原産地/ヨーロッパ
- 特徴/ 別名をキツネノテブクロ(英名 foxglove) といいます。昔、西洋では薬草として栽培されていました。現在は観賞用として花壇などに植えられています。日本には明治時代に渡来しました。春になるとぐんぐん茎を伸ばし草丈が50～100cm位になります。**英**

4月～5月



イペー *Tabebuia chrysotricha* ノウゼンカズラ科

- 原産地/ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン
- 特徴/ 本来は桃色の花が咲く木をイペーといいますが、日本に導入された際に、よく似た黄色い花が咲くコガネノウゼンをイペーと呼ぶようになり定着しました。元の桃色の花が咲く方はアカバナイペーと名付けられました。**萩**

5月～6月



ハナショウブ *Iris ensata var. ensata* アヤメ科

- 原産地/日本
- 特徴/ 一般的に菖蒲といえばハナショウブを指すことが多いのですが、ハナショウブは菖蒲湯に使われるショウブとは別の花です。ハナショウブは湿ったところ、カキツバタは水中や湿ったところ、アヤメは乾いたところが育つのに適していると言われています。**運**

5月～10月



ベンガルヤハズカズラ *Thunbergia grandiflora* キツネノマゴ科

- 原産地/熱帯アジア
- 特徴/ 常緑つる性植物で、つるは長く伸びて木質化します。淡紫色の花を長期間咲かせてくれます。房状に垂れ下がるため壁面やベランダに這わせて日よけとしてよく利用されます。青島亜熱帯植物園では大温室の入口付近で、2階の天井から垂れ下がっているのを見ることができます。**青**

6月



ジャカランダ

Jacaranda mimosifolia ノウゼンカズラ科

- 原産地/南米
- 特徴/ 南米では街路樹に多く利用されています。花の色は淡い紫色で、満開時には木全体を覆ってしまうほど咲き乱れます。「世界三大花木」の一つとされ、別名をキリモドキと言われるように、花が桐の花に似ています。**青**

6月



ヤマアジサイ'七段花' *Hydrangea 'Nanadannbana'* ユキノシタ科

- 原産地/日本
- 特徴/ ヤマアジサイは日本各地の山に自生しているアジサイで、半日陰の湿り気の多い林や沢沿いに生育していることが多いので、別名サワアジサイとも呼ばれています。逆輸入された西洋アジサイに比べて花や枝葉が小振りなのが特徴です。**久**

6月



常緑ヤマボウシ *Cornus kousa* ミズキ科

- 原産地/日本、中国
- 特徴/ ヤマボウシは落葉しますが、最近常緑のヤマボウシが流通するようになりました。常緑なので冬でも葉っぱが付いています。6月には花びらのように見える純白の総苞(そうほう)で覆われ目を奪われます。秋には赤い実も見ることができます。**パ**

6月～7月

アカンサス'モリス'

Acanthus mollis
キツネノマゴ科

- 原産地/ヨーロッパ南部、北アフリカ
- 特徴/ アザミに似た深い切れ込みのある葉で、別名ハアザミとも呼ばれます。毎年花を咲かせる多年草で、古代ギリシャ・ローマ時代、葉が彫刻のモチーフとして多く用いられ、ギリシャの国花となっています。花は草丈が90cm以上になり、存在感のある植物です。**パ・英**





イギリス人の公園生活 「公園＝自宅の庭？」



イギリス人という皆様へのイメージは「ジェントルマン」、「国民皆ガーデナー」、「あくせく働かない・残業をしない」、「時間にルーズ」、「仕事中心のライフスタイルではなく、個々がライフスタイルを確立している」etc…様々なイメージがあると思います。実際の答えは、もちろん、イギリスに住んで、イギリス人とふれ合わない事にはわかりませんが、そんなイメージのイギリス人の公園での過ごし方に興味はありませんか？

イギリス市民にとって公園はシティライフにかかせない場所の一つです。特にロンドン市内には大都市でありながら、大小複数の緑あふれる公園が市内の至る所に点在し、市民の憩いの場として親しまれています。

さて、この公園でのイギリス人の過ごし方で、日本人の公園での過ごし方と大きく違うと感じた点が一つあります。それは「一人で静かに過ごす」人がとても多いことです。日本の公園で孤独な時間を一人で過ごしている人をあまり見かけた事はないと思います。つまり、日本人は家族でピクニックをしたり、友達と遊んだり、イベントで人が集ったりと、公園は「人々が集う空間・広場」という認識が強い方がほとんどだと思います。

ところがイギリス人は、公共的な空間に自らプライベートな空間をつくりだすのです。例えば、一人でおもむろに本を読みふける人、朝から晩まで本を読んでいる人もいます。それから、椅子に座ってひたすら人間ウォッチングをする人、

芝生の上でずっと寝転がっている人、風呂敷を広げてサンドウィッチを食べる人、オフィス街からでてきて、突然、服を脱ぎだし、水着になって日向ぼっこをする人、全て一人です。公園で自宅の庭のように過ごすのです。もちろん、日本と同様に家族やカップルで過ごす人もいますが、日本人に比べると公園で一人で過ごす人の割合ははるかに高いのです。

と、ということで、皆さん、たまには公園で一人静かに、まるで公園が自宅の庭になったかのように過ごす時間をとってみても、新たな発見があってもおもしろいかもしれません。



伊藤 慎一郎

一般財団法人みやざき公園協会
企画設計室 本部室長

英国立グリニッチ大学大学院
ランドスケープアーキテク
チャー学科修士課程修了。
現地の景観設計事務所にて英国
内外の都市計画・景観設計・
個人庭園設計プロジェクトに
携わる。



花もスポーツも…ちょっと欲張りな 公園三昧



花の楽園で南国気分

県立青島亜熱帯植物園

TEL.0985-65-1042 FAX.0985-55-4803

〒889-2162 宮崎市青島2丁目12-1

<http://www.mppf.or.jp/aoshima/>

[楽しみ・特徴] 3月:春のフラワーショー 4月～5月:ブーゲンコレクシオン



心癒される日本庭園、スポーツの中心

宮崎県総合運動公園

TEL.0985-58-6543 FAX.0985-58-4560

〒889-2151 宮崎市大字熊野1443-12

<http://www.mppf.or.jp/undou/>

[特徴] 宮崎の景勝地を集めた日向景修園、スケールの大きな自然環境



サイクリングやウォーキングに最適

県立阿波岐原森林公園

TEL.0985-23-2635 FAX.0985-23-2636

〒880-0834 宮崎市新別府町上和田1336-1

<http://www.mppf.or.jp/awaki/>

[楽しみ] 3月～6月:春のツツ葉 神話と花めぐり



古墳時代にタイムスリップ

特別史跡公園西都原古墳群

TEL.0983-42-0024 FAX.0983-42-0242

〒881-0005 西都市大字三宅西都原5670

<http://www.mppf.or.jp/saito/>

[楽しみ] 春:ウメ、サクラ、ナノハナ



エレガントな佇まいの英国式庭園

国際海浜エントランスプラザ

TEL.0985-32-1369 FAX.0985-32-1380

〒880-0836 宮崎市山崎町浜山414-1

http://www.mppf.or.jp/entrance_plaza/

[楽しみ・特徴] 3月:春のフラワーガーデンショー



広い芝生広場でファミリーレジャー

萩の台公園

TEL.0985-30-2163 FAX.0985-39-5940

〒880-0125 宮崎市大字広原字竹増迫7150

<http://www.mppf.or.jp/haginodai/>

[特徴] 春:ピオトープ、広大な緑の広場



『一般財団法人 みやざき公園協会』が管理している施設



スポーツから花見まで、身近な自然

宮崎市久峰総合公園

TEL・FAX.0985-73-2782

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂13754

<http://www.mppf.or.jp/hisamine/>

[特徴] 桜の名所、多目的なピクニック広場、各種スポーツ施設、野球場



健康とスポーツの拠点

宮崎市佐土原町域体育施設

1 佐土原体育館 2 佐土原西体育館 3 佐土原西運動広場

4 宮崎市佐土原地区農村環境改善センター

佐土原体育館 TEL.0985-73-7223 FAX.0985-75-0155

〒880-0211 宮崎市佐土原町下田島20688-74

<http://www.mppf.or.jp/sadowara/>

5 佐土原武道館

〒880-0211 宮崎市佐土原町下那珂12900-2

TEL・FAX.0985-73-2782

<http://www.mppf.or.jp/sadowara/budoukan/>

[特徴] 体育館での屋内スポーツ、野球、サッカー、伝統的武道



宮崎市街を見下ろす桜の園

宮崎みたま園

TEL.0985-39-5030

〒880-0041 宮崎市池内町天神面3901

<http://mppf.or.jp/mitamaen/>

[楽しみ・特徴] 春:隠れた桜の名所



宮崎の花みどりの事なら

Cross Plants(クロスプランツ)

TEL.0985-74-8787 FAX.0985-74-8788

〒880-0837 宮崎市村角町東原3113

<http://www.mppf.or.jp/crossplants/>

[特徴] 年間:花みどり見本園で、いろいろな植物が楽しめる



編集後記

今年は国内最古の歴史書「古事記」が完成して1300年ということで、関心が高まっています。古事記は上中下3巻からなり、国の誕生や神々の物語などを伝えています。紹介している各公園の中でも阿波岐原森林公園は特にゆかりが深く、「天照大神」など多くの神々が誕生したといわれる「みそぎ池(正式名称:御池)」が隣接しています。

最近ではパワースポットブームということで、古事記に登場する英雄たちの力からパワーを授かるという意味か(?)、これら古事記ゆかりの地を訪れる方が増えています。花・みどり・神話は宮崎県の代名詞でもあり、日常の煩わしさを忘れ、公園めぐりでパワーアップはいかがですか。

編集 (K)